

論文の引用の仕方

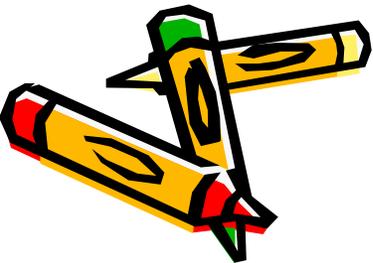
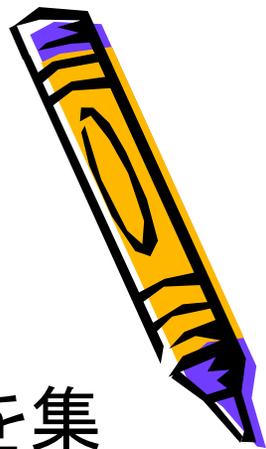
大沼ゼミ 水班
二ノ宮 拓也
武笠 遼
村岡 由海



はじめに

論文を作成するに当たって、様々な情報を集めて、関連した論文を読むことにより知識を深め、自分たちのオリジナルを作り上げていくというプロセスを踏むのが正しい学生論文の作成方法です。しかし、一歩アプローチや認識を誤ると、大変な事態を引き起こし、人に迷惑を掛けてしまう事も起こりえます。

そういった事態を未然に防ぐためにこれから正しい論文の引用方法をお伝えしていきたいと思います。



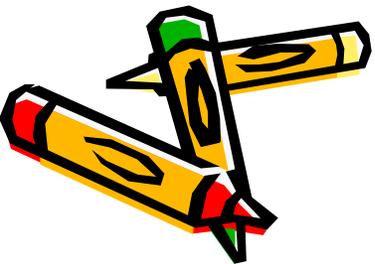
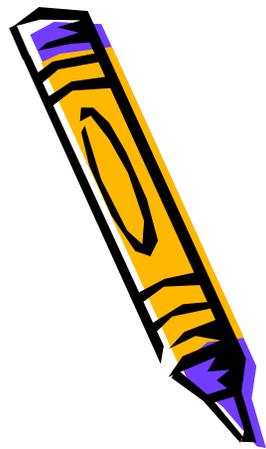
引用の効果

引用とは『収集した情報を適切に使用する』行為

引用は、自分の論文を説得力あるものにする為に同様の研究内容を示すという意味で、欠かせない方法である。

参考文献：論文・レポート全体で参考にした文献を指す

引用文献：もとの文章に含まれている文字列・データをそのまま含めることを指す

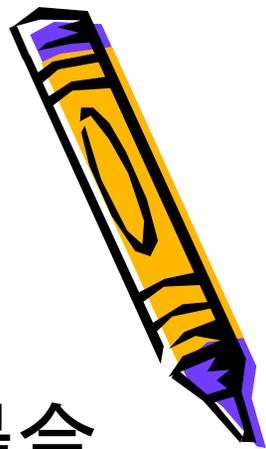


論文を引用するには？

- ・文献を参照して自分の論文に引用する場合

あまりにも引用の量が多いと『転載』という事になってしまい、原作者の許可を必要とする場合がある。

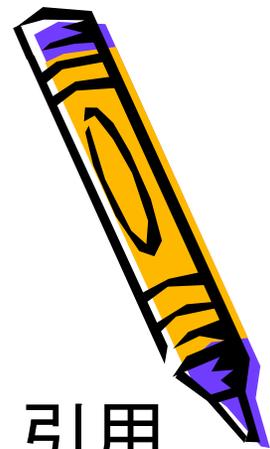
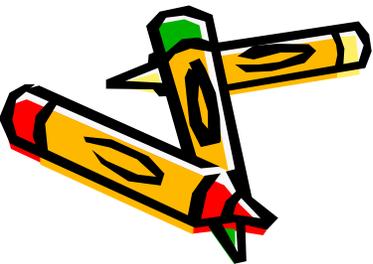
但し、引用と転載の明確な基準というのは無く、個々のケースによる。



著作権法の定める引用

- 著作権法32条一項:「公表された著作物は、引用して利用することができる。この場合において、その引用は、**公正な慣行**に合致するものであり、かつ、**報道**、**批評**、**研究**その他の引用の目的上正当な範囲内で行われるものでなければならない。」

論文で引用する場合は研究にあたるので、許される。



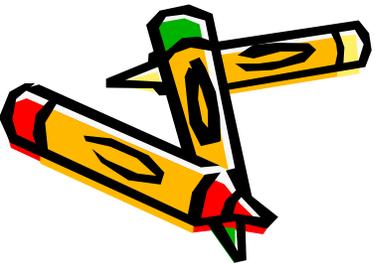
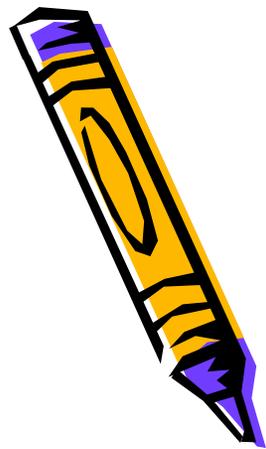
引用のルール

- **必要性最小限度**

自説の補強に不可欠であって、かつ必要最小限度であること

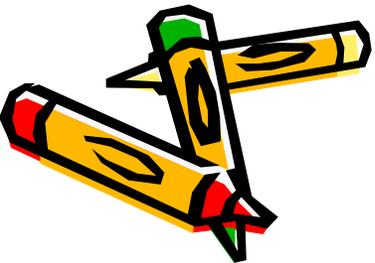
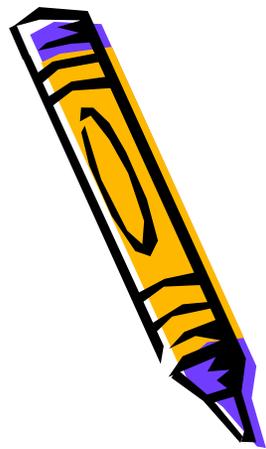
- **引用した箇所を明らかにすること**

- **原文のまま、手を加えずに引用すること**



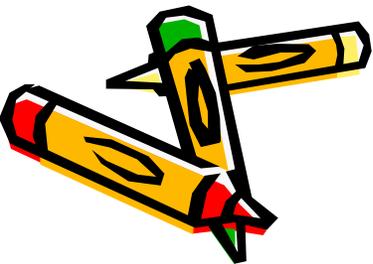
誤った引用・参考の仕方

- 必要以上に大量に引用すること
- 他の文献に書いてある内容を、文末の表現など、言い回しを変えただけで使用すること
- 文献の出典を示さずに文章・数値・データを引用すること



正しい引用の仕方

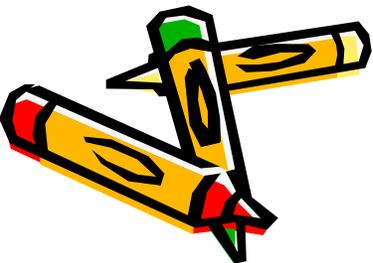
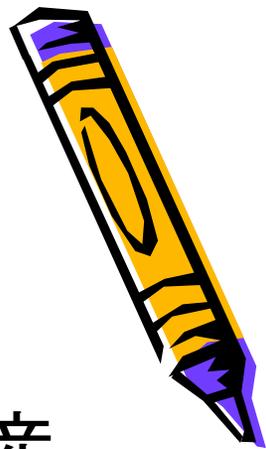
- 短い場合は引用箇所を「」で括るなど明確に区別する。
- 「」の末尾に数字をつける。
- 本文または引用箇所の最後に数字、著者名、著書名、発行者名、出版年、ページ数の順番に明記する。
- 長い場合は前後一行ずつ空け、段落を変え、末尾に同様に記述する。



正しい引用例

- 国富論では分業について、「労働の生産力の最大の改良と、労働がどこかにむけられたり、適用されたりするさいの熟練、技倆、判断力の大部分は、分業の結果であったように思われる」(1)と述べている。

(1) A・スミス 国富論(一) 岩波文庫 2000 p23



Q & A

- 質問：引用の範囲を超えて、転載にあたる場合でも、公表されない場合は大丈夫なのか？

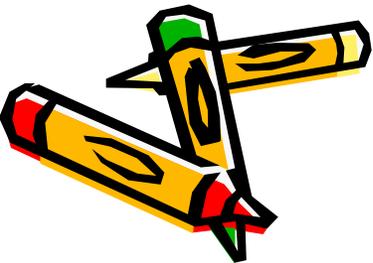
回答：許される。営利性がまったくなく、著作権者の利益を害するものではない為。ただし、大沼ゼミの三田祭論文・卒業論文は発表され、ネット上でも公開されます。

一では公表される場合は？

：引用ならば大丈夫だが、転載になると著者の“転載許諾”を得ることが必要である。1)

引用文献

1) 神谷 信行. 大学生と著作権. 2006、p57－60



著作権適用外・古典を引用する場合

著作者が没して50年経った著作に関しては著作権が失効する



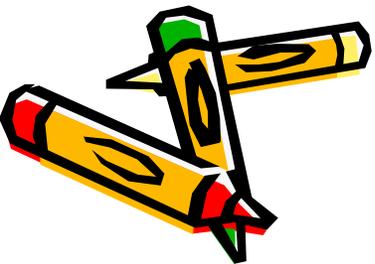
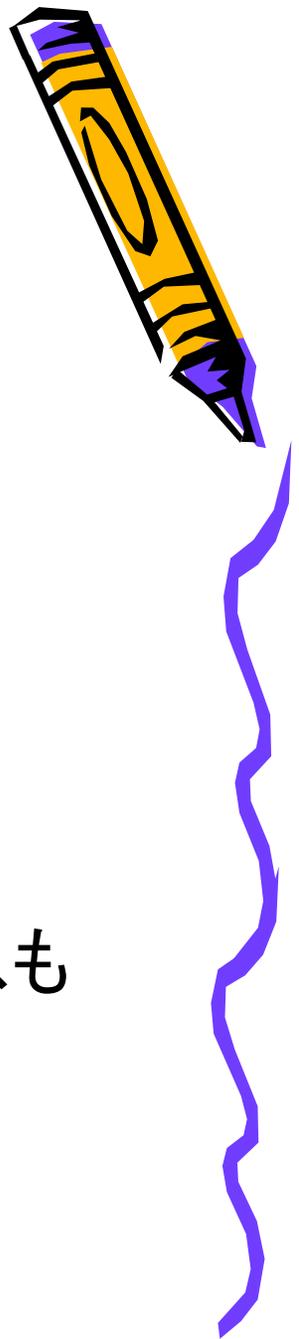
つまり引用・翻訳・出版が自由に行えるようになる。

……しかし一般的に先人に敬意を払い、引用の際はしっかりと出典を明記する事が賢明である



正しい参考文献の書き方

- 本文末尾に著者名を五十音順で記載する。
- 引用の場合と同様に
著者名、著書名、発行者名、出版年
の順に記載する。
- ホームページからの引用についてはアドレスも
記載する。



参考文献・URL

神谷 信行 著 『大学生と著作権』 ナカニシヤ出版、2006

富樫 康明 著 『著作権に気をつけろ！』 勉誠出版、2006

宮田 昇 著 『学術論文のための著作権Q&A』 東海大学出版会、2005

Keio Interactive Tutorial on Information Education
KITIE

<http://project.lib.keio.ac.jp/kitie/index.html>

